北国街道 海野宿街道案内

海野宿の歴史

海野宿は、寛永二年（一六二五）に北国街道の宿駅として開設されました。北国街道は、中山道と北陸道を結ぶ重要な街道で、佐渡で採れた金の輸送や、北陸の諸大名が参勤交代で通った道であり、江戸との交通も頻繁で、善光寺への参詣客も多くありました。

田中宿に隣接して海野宿が置かれたのは、旅人の往来が激しかったためでもありますが、海野の集落は中世における東信濃随一の豪族・海野氏の城下町であり、それと共に依田窪方面や松代からの道、祢津からの道が集結する交通の要衝にあたり、毎月六回もの市が開かれていた交通・商業中心地であったためです。

また、延長約六町（約六五〇メートル）、街道の真中に用水を引き北屋敷、南屋敷の両側に家並みが続き上宿・中宿・下宿に分れていました。

しかし明治時代に入ると宿場時代の広い部屋を利用して養蚕・蚕種業をはじめ、この養蚕最盛期の明治・大正の時代に建てられた堅牢な建物と、江戸時代の旅籠屋造りの建物とがよく調和して現在まで残されてきました。

昭和六十一年（一九八六）「日本の道百選」
昭和六十二年（一九八七）四月には「重要伝統的建造物群保存地区」に選定
令和七年（二千二五）開宿四百年

海野宿の見どころ

海野宿の街並みは江戸時代の旅籠造りと明治以降の蚕室造りの建物がよく調和して伝統的な家並みを形成しています。出桁造りの建物は現在五軒ほど残されています。また、防火の役割を果たしている卯建には幾つもの種類があり、それぞれの時代の特徴を現わしています。多くの家の大屋根にのっている小屋根（気抜き）は養蚕のために明治時代に造られ、家並みのなかに歴史の移り変わりがよく現れています。

海野宿資料館

江戸時代の寛政年間（1790年頃）に建てられた旅籠屋造りの建物です。明治時代には大きな部屋を利用して養蚕が始められ、暖房用の火焚きのための煙出し用小屋根（気抜き窓）が取り付けられていました。昭和59年に寄贈され、一般に公開されました。

■開館時間／午前9時～午後4時
（5～9月は午後5時）
■休館日／12月21日～2月末日

海野宿玩具館

日本各地から集められた郷土玩具が展示されています。

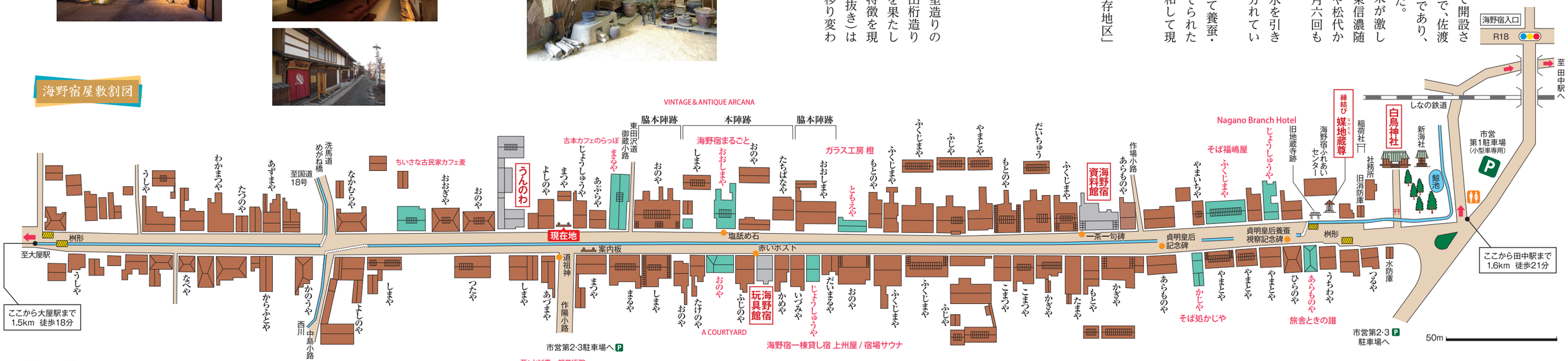
■開館時間／午前9時～午後5時
（10～12月は午後4時）
■休館日／12月21日～2月末日

うんのわ

海野宿の古民家を喫茶・レストラン・宿泊施設等に改装。敷地内で休憩、トイレを利用できます。

■開館時間／午前10時～午後4時
■休館日／毎週水曜日

海野宿屋敷割図



海野宿 春らんまん祭実行委員会 贈
管理 海野宿トラスト

観光に関するお問い合わせは
信州とうみ観光協会
Tel.0268-62-7701
ホームページはこちら▶

Unno-juku Information
Translation 翻訳・翻譯・번역
SCAN QRT
QR Translator.

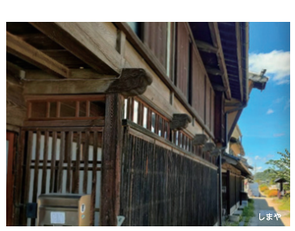
2022年5月現在

大正時代の海野宿

伝統的な建造物の意匠

【袖うだつ】

【本うだつ】



【出梁】

【海野格子】

【小屋根【気抜き】】